

高温に伴う農作物管理対策について

気象災害対策 R 7 - 2
令和 7 年 7 月 4 日
農林総合研究センター

6月中旬以降、気温が高い状態が続いており、気象庁発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は引き続き高く、最新の早期天候情報では、7月9日頃からかなりの高温が見込まれています。

「夏季（6～8月）における農作物管理対策について」を6月2日付けで発出していますが、高温による気象災害の軽減を図るため、今回、更に留意すべき点を取りまとめましたので、指導の参考として下さい。

（1）水稻

① 水管理

- ・用水不足が心配される地域、特に用水をため池に依存している地域では、漏水がないか確認するとともに、集落や地域単位で計画的な水利用に努める。なお、関係機関との連携を密にし、ため池の状態を継続的に把握する。
また、このような地域では強い中干しは避け、飽水状態を保つ水管理とする
- ・中干し終了後は、稲体の活力を維持するため、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態）を徹底する。
- ・日中高温時の長時間の湛水は根の機能が低下するので、できるだけ夕方からの通水とする。
- ・フェーンや強風時にはあらかじめ通水し、稲体の活力低下を防止する。
- ・塩水が流入する可能性のある用水は、塩分濃度が0.1%以下（EC2.0mS/cm）であることを確認の上、使用する。

② 施肥

ア 分施体系の穂肥

- ・穂肥の2回目は、高温登熟に対応するため、出穂7～10日前（葉耳間長0～2cm）に基準量を確実に施用する。
- ・高温により出穂期がさらに早まることも想定し、穂肥施用にあたっては、葉耳間長及び幼穂長により適期を確認し、地力や地域の状況に応じて施用量を判断する。
- ・穂肥施用後は根の機能を保持し登熟向上を図るため、地域の条件に合わせて間断通水を行い飽水状態を保つ。

イ 基肥一発肥料体系への上乗せ追肥

- ・出穂7～10日前（葉耳間長0～2cm）に葉色が維持出来ていないほ場では、高温対策のため、地力の状況等に応じて上乗せ追肥を行う。

○葉色による施用の判断

＜出穂7～10日前に以下の葉色が維持出来ていない場合＞

- ゆめみづほ：葉色5未満
- コシヒカリ：葉色4未満
- ひやくまん穀：葉色4未満

○施用量

- ・窒素成分1～2kg/10a
- ・葉色の濃淡やほ場地力、水田の乾湿等から総合的に判断し、施用量を加減
- ・ただし、高温登熟に対応した穂肥重点型一発肥料をこれまでの慣行と同量施用している場合は、原則、上乗せ追肥は不要。

(2) 大豆

- ・通水は、ほ場内の停滞水によって根の伸長に悪影響を及ぼす場合があるため、ほ場全体の田面が湿る程度とする。
なお、通水後は速やかに排水することとし、かん水は、気温の高い日中を避けて朝夕に実施する。
- ・乾燥が著しく、播種後7日以上たっても出芽が不足している場合や生育抑制が見られる場合は通水を行う。
- ・事前に排水溝の点検・手直しを実施の上、培土を実施したほ場や畝立同時播種を行ったほ場では、畦間通水を行う。平畝で培土未実施のほ場では、額縁排水溝を利用して通水する。
- ・開花期から幼莢期にかけては、最も水を必要とする時期となる。この時期の水分不足は、落花、落莢を招き結莢数が著しく減少するので、開花期から子実肥大期（9月中旬）に3～4日以上晴天が続いた場合、畝間かん水を行なう。

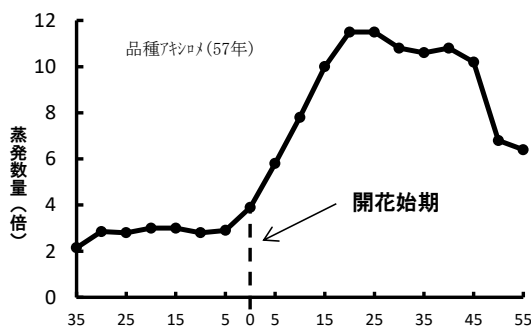


図 開花始期を0とした前後の日数 (S57四国農試)

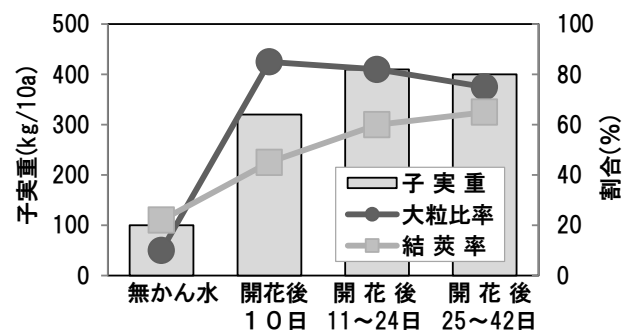


図 かん水時期と結莢率・大粒比率・子実重の関係 (H14富山農試)

(3) 野菜・花き

- ・高温で生育が早まるため、遅れずに栽培管理を行う。特に果菜類では果実の成熟が早まるため、試し切りで熟度を確認し、適熟果を収穫する。
- ・日中高温時のかん水は根を痛めるため、地温の低い早朝または夕方に行う。
- ・土壤の乾燥により微量要素の吸収が悪くなるため、カルシウムやホウ素を含む微量要素入り液肥を散布する。
- ・極端な高温少雨の場合は、十分に散水してから耕起や畝立てを行う。
- ・施設栽培の遮光や遮熱対策は萎れる前に遅れずに実施する。
- ・高温乾燥時はハダニ、アザミウマ、うどんこ病が発生しやすいため、防除を行う。

(4) 果樹

- ・高温によりカメムシ類、ハダニ類、シンクイムシ類等の発生が多くなるので、発生初期に散布むらがないよう丁寧な防除に努める。
- ・かん水できる園では積極的にかん水を行う。雑草の過繁茂は、水分競合を招くことから、草丈20cmを目安に除草し、刈草は樹冠下にマルチする。
- ・成熟期の高温は、果実の着色遅延と果肉軟化を助長するため、収穫適期を逃さないよう注意する。

(5) 畜産・飼料作物

① 畜舎及び家畜

- ・高温時は、熱中症などの家畜疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、細霧システムなどの暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。

高温に関する早期天候情報（北陸地方）

令和7年7月3日14時30分 新潟地方気象台 発表

北陸地方 7月9日頃から かなりの高温

かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 +2.7℃以上

北陸地方では、最近1週間以上、気温の高い状態が続いています。向こう2週間の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、かなり高くなる見込みです。

熱中症の危険性が高い状態が続きます。引き続き、屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど熱中症対策を行い、健康管理に注意してください。また、農作物や家畜の管理等に注意してください。

なお、1週間以内に高温が予測される場合には高温に関する気象情報を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。